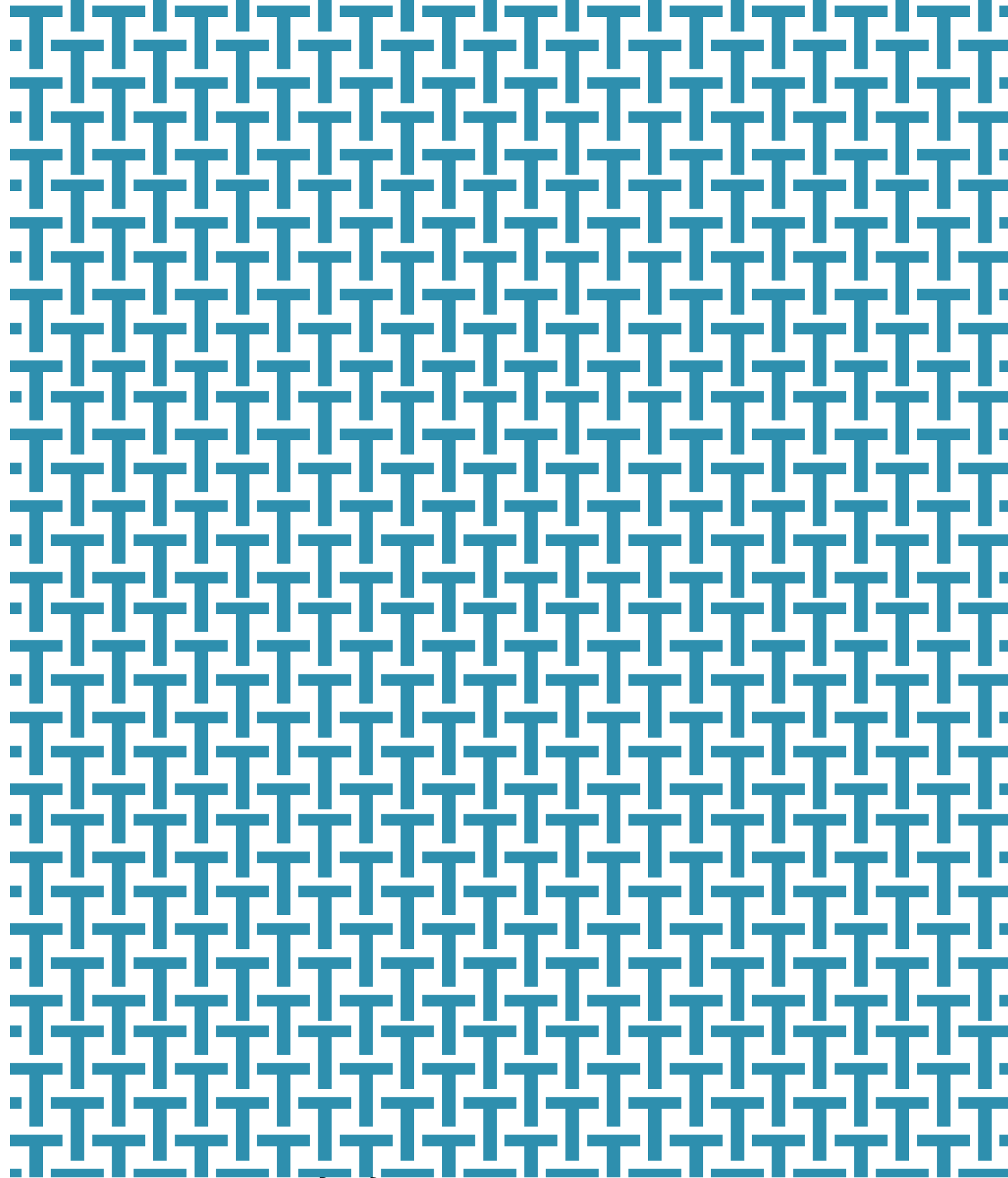




第72回 全日本広告連盟 東京大会事務局

〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-17 電通銀座ビル 7F (公益社団法人 東京広告協会 内)
TEL : 03-3569-3566(代) FAX : 03-3572-5733



つながろう、広告のために。

TOKYO 2024

第72回全日本広告連盟東京大会 大会報告書
2024年5月15日(水) 帝国ホテル 東京
主催：第72回全日本広告連盟東京大会組織委員会・公益社団法人 全日本広告連盟

開催日 2024.5.15(木)

大会会場 帝国ホテル 東京
東京都千代田区内幸町1-1-1

主催 第72回全日本広告連盟東京大会組織委員会 / 公益社団法人 全日本広告連盟

PROGRAM 大会プログラム

記念式典 孔雀の間

14:00 お出迎え [受付開始]

15:00 記念式典 [孔雀の間]

1 開会宣言

第72回全日本広告連盟東京大会
大会会長 大平 明

2 来賓祝辞

公益社団法人
日本アドバイザーズ協会 理事長
川村 和夫 様

一般社団法人
日本新聞協会 副会長
大島 宇一郎 様

一般社団法人
日本民間放送連盟 会長
遠藤 龍之介 様

15:15 表彰

1 第12回全広連日本宣伝賞

2 第3回鈴木三郎助全広連地域広告大賞

16:20 次年度開催地紹介と福井広告協会あいさつ

第73回全広連福井大会 実行委員長 吉田 真土 様

記念懇親会 富士の間

16:30 開場 / 17:00開宴

18:30 閉宴

大会テーマ・ロゴマーク



【ロゴマークデザインコンセプト】

広告関係者の繋がりや交流を、TOKYOの頭文字「T」を使った網目の形によって表現。縦糸や横糸の交差を人と人との交流に置き換えました。色は江戸っ子に親しまれた藍染の色味です。

つながろう、広告のために。

第1回の東京大会から、毎年全国各地で開催されてきた全広連大会。今回は、42年ぶりの東京開催。あの頃とは環境も価値観もまるで別世界。流動する時代の中で、広告もその顧つきを、役割を、何度も変えてきた。AIテクノロジー。多様化社会。そして、コロナウイルス。人と人のつながりの尊さを知った私たちだから、力を合わせて、広告を盛り上げよう。つながろう、改めて今。つながろう、ここ東京から。つながろう、広告のために。



第72回全日本広告連盟東京大会 大会会長

大平 明

本大会には、全国37広告協会から約900名の方々にご参加いただいております。改めて心より御礼申し上げます。近年はSNSの普及によって、親子でさえもメールを介したコミュニケーションの方が好まれる傾向がみられるといわれています。しかしアフターコロナの今、人と人が直接会って、知恵を共有し、一緒に考えて行動していくことの大切さに改めて気づいた人も多いのではないのでしょうか。

一方、我が国の経済の動向を見ますと、今年は21世紀に入って25年、大きなターニングポイントの年になると思っています。既に設備投資は半導体、EV、デジタル、人流拡大等の投資を中心として、2年連続で20%以上の伸びを示しています。新しい製品や技術やサービス、また、従来ある製品やサービス、旅行などのコト消費にも新しい価値を付加すること、それによって、人の心を揺さぶる広告で消費を活発にして、新しい需要を創造し、成長と分配の好循環を実現させる大きな役割を、私たちはこれから果たさなければなりません。広告を依頼する人も、広告を制作する人も、広告を伝える人も、大切なのは「人間を知ること」、そして「人間の心を知ること」だと思います。

大会テーマ「つながろう、広告のために。」のもと、コロナ禍を経て、人と人がつながること、集まることの尊さや喜びを再認識した私たちが広告を通じて社会や生活者にどのようなことができるのか、皆様と共に考え、新しい絆を作る行動をここから始めていただければと期待します。



公益社団法人 日本アドバイザーズ協会 理事長

川村 和夫 様

今、広告コミュニケーションを取り巻く環境は大きく変化しております。グローバルな人口爆発、日本の人口減少や少子高齢化、地球温暖化による気候変動、そして地政学的なリスクも収まる気配はありません。一方で、デジタル技術をベースとしたテクノロジーの進化によって社会のDX化が進み、効率化や利便性、働き方やコミュニケーション手段の多様性など、多くのものをもたらしています。その変化により、生活者の意識や行動も大きく変化しています。

生活者それぞれが、社会的課題の解決を考慮したり、そうした課題に取り組む事業者を応援したり、そうした消費活動を行うエシカル消費という意識が高まっております。生活者のメディア接触も若年層を中心にモバイルシフトが進み、コミュニケーションのあり方も多様化、複雑化が進んでいます。これらの変化は業界に新たな課題とともに、チャンスをもたらしています。そして、課題を解決し、チャンスを生かすためには、今まで以上に関係者すべてがパートナーとして連携を深めていくことが必要であります。

そうした意味で今大会のテーマ「つながろう、広告のために。」は、まさに今我々がやらなければならないことだと考えています。今大会が、関係者すべてが課題と経験と知識を分かち合い、新たな協力関係を築き、過去の知見と、現在の革新的アイデアと戦略を駆使して、広告の明るい未来を築くための契機となることを大いに期待しております。

来賓祝辞



一般社団法人 日本新聞協会 副会長
大島 宇一郎 様

第72回全日本広告連盟東京大会の開催を、心からお祝い申し上げます。第12回全広連日本宣伝賞、第3回鈴木三郎助全広連地域広告大賞を受賞された皆様には心からお祝いを申し上げます。おめでとうございます。

全日本広告連盟は1953年の設立以来、広告主、そして広告会社、媒体社など日本の主要な広告関係者を牽引し、広告界の発展に尽くされてきました。自由で豊かな生活に貢献するという、広告の社会的使命を推進し、地域社会の健全な発展に取り組みましたことに対し、深く敬意を表したいと思います。

現在、デジタル空間を中心に根拠のない不確かな情報が飛び交い、生活者を欺く広告が社会問題となっています。こうした中で、我々は消費者が安心して接することができる広告を提供していかなければならないと考えています。

新聞協会が実施した調査によれば、新聞は信頼性が高く、安心して読んでいただける広告媒体として評価をされています。新聞はこれからも、正確で公正な情報や、信頼され、話題になる広告を提供し続けていくことで、安心安全な生活に貢献して参りたいと思います。デジタル化やAI技術の発展により、社会がめまぐるしく変化していますが、私ども新聞社は時代の変化に柔軟に対応し、多様なアセット（資産、経営資源など）を活用しながら、今後も皆様と共に広告コミュニケーションの発展に寄与して参ります。

来賓祝辞



一般社団法人 日本民間放送連盟 会長
遠藤 龍之介 様

私がテレビ局に入社したのが43年前、前回の東京大会の前年ということで、当時と比べると、広告が伝えるものは商品だけではなく、表現やテクノロジーであり、さらにそれらを取り巻く社会の価値観も含めて、本当に変わってきたということを感じる次第でございます。

ただ、だいぶ長くなった私の放送人人生の中で、広告は一貫して商品やサービスの魅力を伝え、人々の生活を豊かにし、人々に未来の生活や希望をご提案するものだと思います。すなわち広告は文化であると思うのですが、一方で、最近は映像分野、SNSやプラットフォーム上で詐欺広告やなりすまし広告などが散見されるようになり、一つの社会問題となっているのはご存知の通りでございます。

もちろん、今日お集まりの皆様から私どもが提供する広告とそれは似ても似つかないものではありますが、広告産業に携わる一人として、大きな問題意識を持っております。

民間放送は、視聴者、リスナー、ユーザーにとって安心安全な情報を発信し続けるだけでなく、広告主の皆様のブランドイメージの向上にも努めて参ります。デジタルの危険な部分がある反面、AIを使ったデジタル技術は広告に新しい可能性を注入するものでもあり、私どもも広告会社の皆様と知恵を絞りながら、広告主の皆様にご満足いただけるような、新しい時代の広告を今後とも提供していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

第12回 全広連日本宣伝賞

松下賞

キリンホールディングス株式会社 代表取締役会長CEO

磯崎 功典 様

慶應義塾大学経済学部卒業。1977年キリンビール入社。2004年サンミゲル社取締役。2012年キリンビール社長を経て2015年よりキリンホールディングス代表取締役社長。2024年3月28日より同社・代表取締役会長CEOに就任。CSV経営を掲げ、食・医・ヘルスサイエンスの3領域で世界を舞台にキリングループの変革・価値創造・価値向上を推進した。広告界においても、長年に渡り、ブランディング、商品開発、マーケティング領域などで高い存在感を示すとともに、広告関係者にとって大いに参考となる多数の成功事例を生み出している点が高く評価された。



正力賞

映画字幕翻訳者

戸田 奈津子 様

東京都出身。1958年津田塾大学英文学科卒業。フランシス・フォード・ Coppola監督が来日した際の通訳がきっかけで『地獄の黙示録』の日本語字幕を担当し、以後長年にわたり洋画の字幕翻訳者として活躍。『E.T.』『タイタニック』『ミッション：インポッシブル』をはじめ、数々の映画字幕を担当し、字幕翻訳の第一人者としての地位を確立。年間50本もの映画字幕翻訳を長年続けてこられ、日本のエンターテインメント界の発展に大きな貢献をされるとともに、数多くの洋画を日本に紹介し、映画ファンを愉ませてくれたことが高く評価された。



吉田賞

天野幾雄クリエイティブ・スタジオInc. アートディレクター/グラフィックデザイナー

天野 幾雄 様

東京藝術大学美術学部卒。1966年(株)資生堂宣伝部入社。宣伝部部長、役員待遇宣伝制作室長を歴任。1998年に開催された資生堂企業文化展「美と知のミーム、資生堂」展のプロジェクトリーダーを務める。東京アートディレクターズクラブ(ADC)賞、カンヌ国際広告祭金賞、銀賞、日本雑誌広告賞金賞など受賞多数。現在、日本デザイン団体協議会DOO、ジャパンデザインミュージアム設立研究委員。公益社団法人日本グラフィックデザイン協会(JAGDA)の運営に長年に渡り尽力。また、全広連日本宣伝賞選考委員および山名賞選考準備委員会委員長を21年間務めるなど、長年に渡り、次世代の人材育成と広告デザイン界の発展に貢献された。



山名賞

写真家

篠山 紀信 様

1940年東京生まれ。日本大学芸術学部写真学科卒業。在学中の1961年に広告写真家協会展APA賞受賞。広告制作会社ライトブリシティで活躍し、1968年よりフリーランスに。1970年日本写真協会年度賞。1972年芸術選奨新人賞受賞。1976年ベネチア・ビエンナーレ国際美術展の日本館の代表作家に選ばれる。1998年国際写真フェスティバル金賞。2020年第68回菊池寛賞を受賞。2024年1月逝去。三島由紀夫、山口百恵、ジョン・レノンとオノ・ヨーコなどその時代を代表する人物を捉え流行語にもなった「激写」、複数のカメラを統合し一斉にシャッターを切る「シノラマ」など新しい表現方法と新技術で時代を撮り続け、広告・アート領域の発展に多大な貢献をされた。



第12回 全広連日本宣伝賞 受賞者謝辞

松下賞



キリンホールディングス株式会社
マーケティング戦略部長

山田 雄一 様

正力賞



映画字幕翻訳者

戸田 奈津子 様

吉田賞



天野幾雄クリエイティブ・スタジオInc.
アートディレクター/グラフィックデザイナー

天野 幾雄 様

山名賞



写真家

篠山 紀信 様

この度、第12回全広連日本宣伝賞における松下賞という名誉ある賞をいただき、大変光栄に思っております。キリングループは社会課題の解決と同時に経済的価値を創出するCSV経営を掲げ、祖業であるビールをはじめとした酒類や飲料だけでなく、発酵やバイオテクノロジーの強みを生かして医学やヘルスサイエンスといった領域にも事業を展開し、価値創造に取り組んでおります。

企業は社会とともに存続し、そして持続的に成長しなければなりません。そのために私たちは社会の変化を敏感に感じ取りながら、お客様との絆を深めるための革新的なコミュニケーションを支えに、ブランド価値の向上を追求し続けています。何より新しい挑戦を繰り返していくことが大切であると私は考えます。今回の受賞は私個人としてではなく、キリングループの関係者及びご支援いただいたパートナーの皆様が一丸となって取り組んだ成果であると考えております。チームの情熱や創造力を結集した、これまでの挑戦が認められたことを大変嬉しく感じています。

これを励みに今後もより一層の努力を重ね、人や社会に感動と喜びを届けられるよう、引き続き邁進してまいります。最後に、この受賞に関わってくださった全日本広告連盟の皆様、選考委員の皆様、日頃からご支援いただいているパートナーの皆様、そして、キリングループの仲間から心から感謝を申し上げます。

私は映画の字幕の仕事をしておりまして、広告とは本当に何の縁もゆかりもない仕事をしております。そこにこのような名誉ある賞をいただきまして、“なんで私が？”という疑問がずっと頭から離れず、今日、こちらに來まして皆様方の顔を拝見しましても、やはり、“何で私が？”という疑問が解けないままでございます(笑)。

たぶんこの会場にいらっしゃる大勢の方々の中でも、私は間違いなく一番の高年齢者であると思います。そんな長い歳月、映画という大好きなものに打ち込んでくることができて、心から運が良かったと思っております。映画の世界に心底はまりまして、何十年もの間、好きなことを続けてくることができた。もちろん苦労したこともいろいろありましたけれど、念願の仕事に就いて、長い歳月ずっと打ち込んでくることができたというのは、本当にラッキーであると。そして終盤になって、正力賞をいただくというこんなに素敵なご褒美まで頂戴いたしまして、私はなんと幸運な人間なのかと……、その言葉しかございません。

私たち、私自身の生活も、日々、広告を目にすることなく過ごす1日はないわけでもございまして、今日はその第一線の方々の、尊いそのお仕事の成果を拝見することもできました。今後もぜひ日本をよい方向に導くような素晴らしいお仕事を期待させていただきます。この協会のますますのご発展を心からお祈り申し上げ、お礼といたします。

私は1960年代の半ばから2000年代まで、35年間、資生堂宣伝部で広告制作を、そして資生堂卒業後は日本宣伝クラブ、現在の全日本広告連盟の日本宣伝賞・山名賞の選考委員長を21年間、勤めさせていただきました。この度は、日本のデザイン界の向上発展に貢献したという評価を賜りまして、本当にありがとうございます。

今年、私は7回目の辰年を迎えており、84歳になります。私の父、天野秀二が84歳の時に出版しました「84歳の現役サラリーマン」という本を、昨年、83歳になった頃から1ページ1ページじっくりと読んだのですが、私も現役デザイナーとしてまだまだこれから頑張る、という思いを強くしております。高度経済成長、大量生産・大量消費の広告が大きく花開いた1960年代に社会に出て、実に60年間、現役で活動させていただいております。広告を取り巻く環境は現在、デジタル世界に入り、スピードも価値観も広告のあり方も、大きく変わってきました。

実はこの吉田賞の第一回目(1961年)の受賞者は、私が大尊敬しております資生堂の大先輩の山名文夫先生でした(当時は日本宣伝クラブが実施)。山名先生以来、資生堂では私が二人目の受賞者ということになりまして、本当に信じられない気持ち、感動、感謝の気持ちであります。これからも日本の広告業界の向上発展に努めたいと思いますし、若い世代に広告の大切さをしっかり伝えて参りたいと思います。

大学在学中に写真家としてのキャリアをスタートされ、常に写真界の第一線を走り続けてこられた篠山氏は、ヌードや都市風景、著名人のポートレート、ファッションや広告まで幅広いジャンルの被写体を、従来の写真の枠組みにとらわれず、「激写」や「シノラマ」といった独自の表現方法と新技術をもって撮影してこられました。

60年に渡って最前線に立たれ、時代精神の表現者として、篠山氏が撮影した人物は時代のシンボルにもなっています。広告領域においても多くの作品に携われ、私たちの記憶に今なお鮮烈に残る作品を多数撮影されています。

※大会でのご紹介コメントより

最優秀賞 および フィルム・オーディオ部門賞

受賞者 株式会社 海の中道海洋生態科学館 様 推薦協会 福岡広告協会

受賞作 [ウニのボールジョイント] 篇 [ネコザメのドリル卵] 篇
[カラッパの抜け殻] 篇(CM)

受賞理由

世界の海のおよそ95%が深海で、ほとんどの人はそこへたどりつくことはできない。海に広がる未知の世界を宇宙のようなビジュアルに見立てて、マリンワールド海の中道にある「うみのなか未知」を表現。ウニやネコザメの卵などの生き物を超接写撮影し、これまでに見たことのないような姿を切り撮った。海の生き物を魅力的に伝えることで、見る人の知的好奇心を刺激し、生命の不思議や尊さを再認識するきっかけになるような広告を目指した。水族館のもつ学術的な側面と本質的価値を追求した、マリンワールドの新たな顔となるコミュニケーションの達成に寄与するものとなった。

水族館のもつ本質的な価値に正面から向き合い課題に応えるとともに、力のある映像とデザインの美しさなどの高いクリエイティビティを両立させた圧倒的な強さが高く評価された。



[ウニのボールジョイント] 篇(CM)



株式会社 海の中道海洋生態科学館 代表取締役
東 圭司 様

■今回はこのような広告業界のこの上ない素晴らしい賞をいただきまして、スタッフ一同大変感謝しております。本当にありがとうございます。今回、製作に関わったスタッフの皆様方、そして、ご推薦いただいた福岡広告協会の皆様、そして、全広連東京大会、全広連の皆様方に大変感謝いたします。改めて御礼申し上げます。

■「マリンワールド海の中道」は福岡にある水族館でございます。南は奄美から北は玄界灘まで、「九州の海」を展示しております。水族館という、レジャー施設という意味合いも非常に強いですが、それ以外にも、海の大自然に生きる生き物の面白さ、不思議さ、そういったものを見ていただき、興味を持っていただき、ひいては自然保護へと理解を深めていく、という役割も担っております。



今回の作品は、クリエイティブ・スタッフの皆さんやチームの皆さんがその海の生き物の面白さ、不思議さを見事に拡大し、引き出し、存分に魅力を引き上げてくださったもので、大変感謝いたしております。

今回の受賞を通じまして、この作品をさらにより多くの皆様方にご覧いただくことによって、自然保護への理解がさらに深まり、またSDGsの目標の一つであります「海の豊かさを守ろう」という目標達成に向かって、少しでも寄与できるのではないかと考えております。この度は、本当にありがとうございました！

第3回 鈴木三郎助全広連地域広告大賞

プリント部門賞

受賞者 日本たばこ産業(株)
 受賞作 「裏技で読もう!
 表裏一体 富士山世界文化遺産10周年」企画(新聞)
 推薦協会 山梨広告協会・静岡県広告協会

プリント部門賞

受賞者 沖縄セルラー電話(株)
 受賞作 生物多様性沖縄2紙マルチ新聞広告
 「わたしたちが、絶滅危惧種になるまえに。」(新聞)
 推薦協会 沖縄広告協会

チャレンジ部門賞

受賞者 アクリルアニマルプロジェクト実行委員会
 受賞作 「アクリルアニマルプロジェクト」(プロダクト・イベント)
 推薦協会 福岡広告協会

チャレンジ部門賞

受賞者 みんなの冷蔵庫実行委員会
 受賞作 「みんなの冷蔵庫 in 太宰府」(イベント)
 推薦協会 福岡広告協会

フィルム・オーディオ部門賞

受賞者 大口酒造(株)
 受賞作 黒伊佐錦の詩「映画館と温泉」篇/
 「上を向く」篇/「むという意味」篇(ラジオCM)
 推薦協会 福岡広告協会

キャンペーン部門賞

受賞者 「寄り道しよう。to the BAR in KOBE 2023」実行委員会
 (サントリー(株)・神戸新聞社ほか)
 受賞作 「寄り道しよう。to the BAR in KOBE 2023」(新聞・雑誌・OOH)
 推薦協会 神戸広告協会

キャンペーン部門賞

受賞者 岩手日報社
 受賞作 育てよう災害救助犬プロジェクト「いわてワンプロ」(新聞)
 推薦協会 岩手広告協会



次年度開催地福井広告協会代表あいさつ



第73回 全広連福井大会実行委員長

吉田 真士 様

来年の福井大会のロゴマークは、福井のF(エフ)に幸せという漢字を忍ばせたデザインになりました。その意味は、福井には幸せが隠れている、詰まっている、ということです。実は福井県は、全国の都道府県幸福度ランキングでこの10年、ずっと一位に選んでいただいております。それは全国で一番幸せな県であるという意味だと思っております。知名度も、派手さもそんなにありませんが、ちょっと訪れたり、住んでみたりすると、素敵だなあと思っただけ、そんな県なのかと思っております。

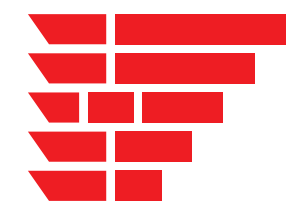
3月16日、そんな福井に北陸新幹線がようやく延伸・開業をしてくれました。その前後から多くのメディアで福井のことをご紹介いただく機会が大幅に増えまして、福井県の方でも関東圏を中心に観光PRを含めた広告をどんどん出すように取り組んでおります。

その結果、今、福井は大にぎわいで、場所によっては前年比何倍増か、という人出となって、地元として本当に喜び、驚いているところでございます。合わせて、メディアの力、広告

の力を改めて体感しているところでもあります。

福井はこの数年でずいぶん様変わりを行いました。新幹線の開業に合わせて、福井の駅前はもちろん、各観光地も絶賛リニューアルで、磨きをかけております。来年は、初めての方はもちろん、そうではない方も、新鮮なお気持ちで福井にお越しいただけたらと思います。

福につながれ、広告。



FUKUI 2025

会場風景



全国から広告関係者約900名が参加されました



第12回全広連日本宣伝賞受賞者を紹介するコーナー



第3回鈴木三郎助全広連地域広告大賞受賞作品を紹介する展示



式典会場は参加者で満席でした



会場のいたるところでご挨拶の名刺交換が



最優秀賞の(株)海の中道海洋生態科学館様の作品



進行はTBSの田村真子アナウンサー



参加者が作品を熱心に見入っていました



懇親会風景



懇親会会場は富士の間



東京の水道水を利用した日本酒で
全広連新任理事による鏡開き



日本広告業協会 五十嵐博理事長による乾杯のご発声



800名以上の参加者が懇親を深めました

第72回 東京大会組織委員会 大会役員・委員

大会会長	大平 明	(公社) 東京広告協会 理事長
大会副会長	石井 直	(公社) 東京広告協会 副理事長
	田中 洋志	(公社) 東京広告協会 専務理事
組織委員長	東末 吉史	(公社) 東京広告協会 常務理事
組織委員	片上 崇	(公社) 東京広告協会 総務委員会委員長
	吉田 晃	(公社) 東京広告協会 業務委員会委員長
	熊谷 好真	(公社) 東京広告協会 業務委員会副委員長
	戸辺 久之	(公社) 東京広告協会 広報委員会委員長
	高橋 満	(公社) 東京広告協会 広報委員会副委員長
	桑畑 一浩	(公社) 東京広告協会 法務政策委員会委員長
監 事	高嶺 裕	(公社) 東京広告協会 総務委員会副委員長
	柳原 康成	(公社) 東京広告協会 法務政策委員会副委員長
事務局 長	村田 久典	(公社) 東京広告協会 事務局長

※2024年6月19日現在 (敬称略)

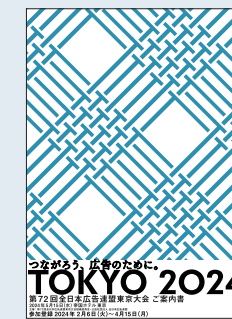
大会告知関連ツール



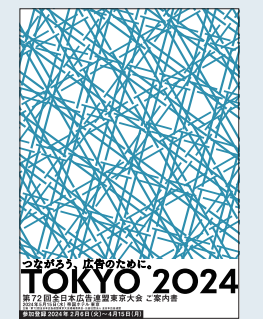
ポスター



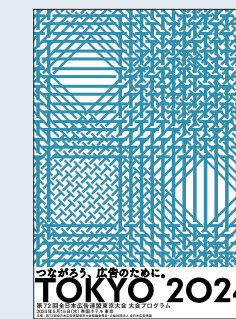
フライヤー



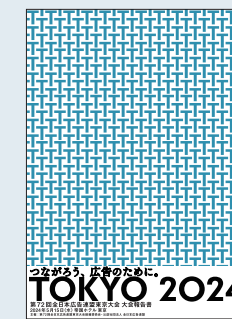
ご案内書①



ご案内書②



大会当日プログラム



大会報告書

大会参加者数 888名